

決 算 特 別 委 員 会 報 告 会

議 長	事務局長	次 長	書 記
			

会 議 日 時	令和3年10月27日（水） 午前9時 ～ 午後3時			
会 議 場 所	○議員控室 ○委員会室 ○議会図書室 ◎その他（大正地域振興局2階大会議室）			
出 席 者 数	委員 名のうち出席者 名			
出 席 委 員	委 員 長	緒方 正綱	委 員	武田 秀義
	副委員長	古谷 幹夫	委 員	中屋 康
	委 員	槇野 章	委 員	村井 眞菜
	委 員	林 健三		
欠 席 委 員				
事 務 局	事務局長	長谷部 卓也		
説 明 者	大正地域 振 興 課	局 長 北村耕助	十和地域 振 興 課	局 長 富田 努
		副 課 長 林 和利		副 課 長 上川 優
		係 長 吉村紀一郎		係 長 都築 桂
	大正町民 生 活 課	課 長 田辺真司	十和町民 生 活 課	主 幹 沖野慎吾
		副 課 長 芝あゆみ		課 長 細川理香
				副 課 長 畦地永生
傍 聴 者				
付 議 事 件	1. 決算特別委員会打合せ			
	2. 令和2年度四万十町各会計歳入歳出決算認定審査			
	1. 大正地域振興課 2. 大正町民生活課 3. 十和地域振興課			
	4. 十和町民生活課			
審 査 ・ 調 査	決算書、成果説明書を基に審査を行った。			
	1. 大正地域振興課（9：30～10：45）			
	・大正地域まちづくり推進協議会 委員9名中公募委員が4名だが増やしてはどうか。			
	⇒公共団体からの委員とのバランスを考えて検討する余地はある。			
	・大正地域まちづくり推進協議会で毎年テーマを決め、話し合った内容を執行部に提案する取り組みはどうしているか。			
	⇒遊休施設の活用、四万十高校の支援策など提言するようにしている。			
	・道の駅「四万十大正」再整備事業 利用促進のための整備と思うが、信号機の設置など国道の横断に係る安全対策は検討されたか。			

	⇒信号機の設置についてはいろいろ制約があるが、看板等安全対策は今後も検討していきたい。
	・道の駅「四万十大正」再整備事業 令和2、3年度と工事を行ったが令和4年度以降の工事の予定は。
	⇒であいの里改修工事など検討している。
	・道の駅「四万十大正」再整備事業 東屋解体移築工事の決算内容は。
	⇒前払い金（40%以内）を令和2年度に支出し、繰越事業として今年度完了している。
	・道の駅「四万十大正」 敷地内に県管理、町管理で分かれている部分がある。情報館やトイレの管理等複雑化しているが改善できないか。
	⇒駐車場区画の整備については、今後も土地の交換などで対応していく。情報館管理については、今後も県管理施設となる。
	・オートキャンプ場ウェル花夢施設整備事業 改修工事費の内容は。また、ソロキャンプへの対応は可能か。今後の活用について計画はあるか。
	⇒改修工事は、ケビン、シャワー棟、トイレ棟、事務所の老朽化による修繕工事。ソロキャンプへの対応は、レンタルセットなど完備している。今後の活用は、指定管理者と協議して計画している。
	・「きらら大正」太陽光・空調設備等整備事業 災害対策だけでの位置付けか。光熱費の節減に対する効果は。
	⇒設置から1年経過していないので、節電に対しての効果が検証しづらいが、当然効果があるものとして認識している。
	2. 大正町民生活課（11：00～11：30）
	・健康ステーション事業 本町との連携はできているか。利用促進について、積極的に周知・宣伝すべきではないか。地域の特色を生かした活動の検討は。
	⇒チラシや口コミ等での周知は行っている。
	・配食サービス事業 四万十町全体はサービス数も伸びているが、大正地域は他の地域に比べて少ない。要因をどう捉えているか。
	⇒要因は調べていない。検証するようにする。
	3. 十和地域振興課（13：15～14：10）
	・ジップラインは目標以上の実績があるが、利用者の県内外の内訳は。また近隣に類似施設ができているが影響はないか。
	⇒50%ぐらいが県内、30%ぐらいが愛媛県、残りが四国外の状況。近隣の類似施

	設については、立地条件が違うので、さび分けされている。		
	・ジップライン施設賠償責任保険料の内容は。		
	⇒保険期間は1年間で、身体の損害や物損が対象。利用者の過失による事故等に関しては、利用料金に含まれている。		
	・ライダーズイン四万十 例年以上の実績と聞くが、関係人口の増加は、経済効果にもつながると思われる。令和元年度との比較をさく。		
	⇒令和元年度が195人、令和2年度は349人。		
	・四万十栗の再生プロジェクト推進事業 事業の実績、効果、生産量について、現役の成木総量から比べると、生産量が低いのではないか。		
	⇒実数として追えるのは、JAへの系統出荷のみで、生産者が約300人いる中の、110人ぐらいしか実数は追えない。系統外出荷も半分はいると把握している。		
	4. 十和町民生活課（14：10～15：00）		
	・健康ステーション事業 利用状況と取組。普及に対する考え方、地域性を生かした取組内容。団体や業者との連携の考え方。		
	⇒十和地域では47人の利用実績。広報誌やあったかふれあいセンターなどでも広めていただく体制を取っている。ウォーキングも企画していたが、新型コロナウイルス感染症禍で開催できなかった。		
	・十和民具館解体撤去事業 記録保存の内容は。		
	⇒記録保存業務を委託し、報告書として仕上げている。		
	報 告 日	令和3年11月22日（月）	委員長署名
			緒方 正綱 